

鹿屋市立鹿屋小学校 特別の教育課程の実施状況等について

1 特別の教育課程の概要

本校では、文部科学省教育課程特例校の指定を受け、下記の時数を確保し、英語教育を推進しています。

英語を使って自分の本当の気持ちや考えを伝え合っている姿を最終ゴールに設定し、小学校1年生から児童の興味・関心や理解度に合わせて段階的に指導することで、6年間を通して、総合的にコミュニケーション能力の基礎となる力を育成することを目指しています。

学 年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年 (教科)	6 年 (教科)	総時数
年間時数	2 0	2 0	3 5	3 5	7 0	7 0	2 5 0
使用する 教材等	オリジナル	オリジナル	Let' s Try!1	Let' s Try!2	教科書 My Book	教科書 My Book	

2 本校の教育目標

つよく かしくく すなおで 瞳が生き生きと輝き 笑顔あふれる子どもの育成

3 本校の令和2年度英語教育の実践について

(1) 1・2年生の取組

- ・ 担任と JTE (ALT) との TT による指導
- ・ ゲームやチャンツ、英語絵本の読み聞かせ

(2) 3・4年生の取組

- ・ 担任と JTE (ALT) との TT による指導
- ・ ゲームやチャンツを通した子ども同士の交流活動

(3) 5・6年生の取組

- ・ 担任と JTE (ALT) との TT による指導
- ・ オールイングリッシュタイムにおける交流活動

(4) 小中一貫教育について

中学校英語科教員による乗り入れ授業の実施 2・3 学期
2・3 学期：4 年生（英語） 3 学期：6 年生（英語）

(5) 校内研修体制について

- ・ 年度当初に模擬授業会を実施し、本校における英語科授業の進め方を共通理解
- ・ 校内研修組織に英語班を設置し、専門的に研究を進めている。

4 特別の教育課程の実施状況に関する検証結果

(1) 自己評価（児童）の結果から

英語の授業は好きですか。

	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
好き	64. 6%	37. 1%	79. 3%	51. 8%	33. 3%	43. 2%
どちらかというとき好き	7. 3%	43. 3%	13. 0%	35. 3%	33. 3%	35. 2%
あまり好きではない	20. 7%	15. 5%	6. 5%	10. 6%	25. 3%	17. 0%
好きではない	7. 3%	4. 1%	1. 1%	2. 4%	8. 1%	4. 5%

(2) 自己評価（教員）の結果から

Q1 1 年生からの英語教育の実施は、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながっていると思いますか。

思う	どちらかというとき思う	どちらかというとき思わない	思わない
63. 3%	33. 3%	3. 3%	0%

Q2 1 年生からの英語教育に期待することは何ですか。（自由記述、一部抜粋）

- ・ 【1～4 年】 相手の気持ちや言いたいことを推し量る力の育成。相手の考えを受け止める心の育成。誰とでも話したり、笑顔で話したり、アイコンタクトを意識して話したり、反応を返したりするなど、コミュニケーションに必要な態度面の育成。

※ 1 年生～4 年生までの上記のような積み上げがあることで、鹿屋小の 5, 6 年は物怖じせず、人前でも活発にやり取りができる。

- ・ 【5, 6 年】 ・アルファベットの正確な記述や音での読みができるようになる。
- ・ 簡単な英単語や短い文のまとまりを正確に書き写すことができるようになる。
- ・ 具体的な生活場面で用いる基本的な表現の習得。
- ・ 即興的に話を続けるスキルの育成。
- ・ 目的や場面、状況に応じて、自分の力にあった表現を選んで話をする力の育成。
- ・ 自国の文化の良さとともに異国の文化の良さに気付いたり、異国の文化を受け入れたりする心の育成。

(3) 保護者評価結果から

Q1 お子さんは、英語の授業が好きですか。

思う	どちらかというとき思う	どちらかというとき思わない	思わない
52. 6%	32. 8%	11. 4%	3. 2%

Q2 1年生からの英語教育に期待することは何ですか。(自由記述、一部抜粋)

- ・ 興味があるうちに教えていただければ楽しく取り組めると思うので、英語教育は積極的に進めてもらいたい。
- ・ 普段はなかなか接する事がない他国の方と英語で話す機会がある事で、英語の授業も楽しいみたいです。
- ・ 楽しく親しみながら学べればいいと思う。
- ・ 指導する人により技量に差があると困るので、研修を積み重ねてどの先生も同じように指導できるようになっていただければありがたい。

(4) 学校関係者評価結果から

Q1 1年生からの英語教育の実施は、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながっていると思いますか。

思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	思わない
75.0%	25.0%	0%	0%

Q2 1年生からの英語教育に期待することは何ですか。(自由記述、一部抜粋)

- ・ グローバル化が進む中で英語の必要性はますます高まる。幼少期からの積み重ねはよいことであるが、正しい日本語の習得も併せて確実に行いたい。
- ・ ネイティブの発音に親しんで欲しい。耳で覚える、英語耳を育てて欲しい。
- ・ 日常生活の中に英語が入り込み、自然と英語を学べる環境を守っていて欲しい。勉強として英語を学んでいくのではなく、タブレットを道具として学習を進めていくように、コミュニケーションツールとして英語を習得していけるとよい。

5 令和3年度の実施について

(1) 1・2年生の実施

- ・ 担任と JTE (ALT) との TT による指導
- ・ 歌やゲーム、チャンツによる英語に親しむ活動
- ・ 英語絵本の読み聞かせ など
- ・ コミュニケーションポイントの指導(主に態度面)

(2) 3・4年生の実施

- ・ 担任と JTE (ALT) との TT による指導
- ・ ゲームやチャンツを通した子ども同士の交流活動
- ・ 英語絵本の読み聞かせ など
- ・ コミュニケーションポイントの指導

(3) 5・6年生の取組

- ・ 担任と JTE (ALT) との TT による指導
- ・ Small Talk の充実
(オールイングリッシュタイム・児童同士のやり取りを続ける力をつける)
- ・ 自らの思いを英語で豊かに表現する言葉さがし など
- ・ コミュニケーションポイントの指導

(4) 小中一貫教育について

- ・ 中学校英語科教員による乗り入れ授業の実施 3 学期

(5) 校内研修体制について

- ・ 年度当初に模擬授業会を実施し、本校における英語科授業の進め方を共通理解
- ・ 校内研修組織に英語班を設置し、専門的に研究を進めている。
- ・ 市内小・中学校に本校研究に共同研究員として参加する職員を募集し、他校との実践交流や意見交換を通して、指導方法の改善を図っている。